

第78回横須賀市環境審議会 議事録

1 日時

令和5年7月31日(月) 14時00分から15時30分まで

2 場所

横須賀市役所消防局庁舎4階 災害対策本部室(Web併用)

3 出席者

(1) 環境審議会委員(16名)

奥委員(委員長)、飯島委員、**今井委員**、川名委員、岸委員、**木本委員**、**工藤委員**、**高梨委員**、西垣委員、**長谷川委員**、濱野委員、林委員、福本委員、松本委員、松行委員、山口委員

※太字は会場での参加委員、それ以外はリモートでの参加委員

(2) 事務局(環境政策課)職員(4名)

佐藤課長、大野田主査、池田、中村

(3) 関係職員(7名)

[環境部] 山口部長

[経営企画部] 都市戦略課:吉田課長、林主査、天野担当

[建設部] 自然環境・河川課:引本課長、内田主査、森塚担当

4 傍聴者

4名

5 開会

(1) 会議資料の確認

(2) 定足数について

・委員1名欠員の報告

・委員17名中、15名の出席により定足数を満たしているため会議が成立することを報告
(1名は途中参加)

(3) 会議の進め方についての説明(会場参加委員及びリモート参加委員)

6 議事

〔議題1〕横須賀市環境審議会傍聴実施要領の改正について(案)

事務局から、傍聴実施要領の改正箇所について説明した。

■委員長

ただ今、傍聴におけるデジタル機器の取り扱いに関する変更と所管課名の変更の説明があった。ご意見・ご質問等をいただきたいと思いますというがいかがか。

[意見なし]

特にご意見がないようなので、傍聴実施要領の改正については原案のとおりとする。

〔傍聴者入室〕

〔議題2〕各計画の年次報告書の骨子等について

①横須賀市環境基本計画 2030

②ゼロカーボンシティよこすか 2050 アクションプラン

③横須賀市みどりの基本計画中間見直し

事務局から、各計画の令和4年度年次報告書の骨子や変更点について説明し、質疑応答を行った。質疑応答の内容については以下のとおり。

■委員長

ただ今、事務局から3つの計画の年次報告書の骨子案についての説明があった。ご意見・ご質問等をいただきたいと思うがいかがか。

なお、今回は骨子ということで、任期を跨ぐが、内容については次回開催予定の審議会で確認いただくことになる。

■松行委員

資料6のスライド12~13、グラフを使って取り組み状況を示すというところについて、基本的にグラフが線形でいくことを前提としているような気がするが、私たちがモデルを作るときは非線形のモデルも作ったりするなど、物事がすべて線形でいくわけではないという認識である。こういった自治体の施策は、毎年積み上げていって、最初のほうは非常に進捗が悪くても、だんだん慣れてきて後のほうになると進捗が良くなって目的を達成するということも考えられるが、このように一定のペースでやっていくということなのか。

■委員長

事務局はいかがか。

■都市戦略課長

指標や取り組みによって合うもの、合わないものがあると考えられるが、あくまで例示として、こういう形が分かりやすいだろうということでお示ししたものである。その辺りは指標によってわかりやすいものを見極めながら提示したい。

ただし、いずれにせよ途中の目標、何年度に何をするか・どこまでやるかという途中経過がないため、最終年度に指標にたどり着いたのかということはわかりやすくお示ししたい。

■松行委員

オレンジ色の点線は引く予定なのか。

■都市戦略課長

その辺りも考えていきたい。その点線があったほうが最終的なところに向かってどの程度までいったのかがわかりやすいと考えているが、実際作っていくと、青い実績の棒グラフを並べたほうが分かりやすく点線は不要かもしれないので、作りながら考えていきたい。

■松行委員

承知した。誤解がないような表現が望ましい。

■委員長

今のご指摘を踏まえて年次報告書（案）を作るときは、どのように進捗状況を分かりやすく示しつつ、目標に向けての歩みが今どの程度かを分かりやすく示しつつ、ただし誤解がないように作っていただき、中身が出てきたら松行委員にもまたご意見等を頂戴したい。

■今井委員

資料6のスライド12～13、「このままでは達成できない」、「取り組みが後退している」というのはPDCAのCの段階である。仮に、途中でこういう状況が出てきた場合、その時点でA（Action）をどのように変えていくか対応を考えたい。

■委員長

Actionに結びつけていくことが重要なので達成できないとしたらどうしていくか考えたいということだが、いかがか。

■都市戦略課長

ご意見のとおりである。今どこにいるのかという現状をわかってもらうことが、まず先に必要であるとしてこのグラフをお示しした。

説明の際に少し早くて恐縮だが、今回参考にしたいと考えているのが、資料6のスライド7～8のとおりである。今回見直しを行う上でいろいろな自治体のホームページで検索してみた中で、佐世保市の年次報告書について、説明の中では色がついていてわかりやすいと話したが、上のほうを見ると、現況値がこのくらいあって目標値がこのくらい、前年度からは（佐世保市は星印をつけて）どのように改善したか、総合評価はどうなっているかということに記載している。

また、スライド8を見ると、それを踏まえてどのような取り組みをしているのかということや、右側には今後の方向性を記載する書式となっている。

委員からご意見いただいた「今後Actionをどうしていくのか、現状に対して今後どうしていくのか」ということについては、最も大事なところになると考えているので、このような形で「こういうふうにしていきたい」ということを記載していく。そして、その記載内容について審議会でご意見をいただき、修正していきたい。

■今井委員

了解した。

■飯島委員

資料6について、各委員から質問があったように、今回この改訂に至った発想を知りたい。突然頁数を40頁から20頁に削減するなど、かなり大胆な改訂を提案している。ビジュアルに注意を払うというのはわかったが、そもそも文字数が多くて読みづらいというのが一般市民から意見があったのか、庁内での認識なのか。目標への進捗状況がわからないという問題認識をどこから感じたの

か。私の意見としては、ビジュアルでということは大事だが、一定程度は文章で伝えなければいけないことがあると思うので、その辺りの背景をお聞きしたい。

■委員長

方向性のところについて、背景をもう少し詳しく聞きたいということだが、事務局はいかがか。

■都市戦略課長

頁数を削減するというのが少し目立ってしまったが、経緯としては、昨年度までの報告書の中を見ながら新しいアクションプランを見たときに、庁内でわかりづらいのではないかという意見が出てきた。しかし、頁数を少なくしたいがゆえにそのようなことを提案したのではなく、わかってもらえるほうが良いと考えた。昨年度の報告書を改めてみると、本当に字が小さく、また、自分たちで書いておきながらだいた文章も冗長な部分があり、いま自分たちがどこに立っていて、これからどう進もうかということがいまいちわかりにくい。ご覧いただく方も、詳しく知りたい方と大体の内容を知りたい方で、知りたいレベル感が違う。

このようなことから、内容についてはできる限りわかりやすくして市民に手に取っていただきたい。特に脱炭素というのは、ひとりひとりが我が事として取り組んでいただくことが全体のCO₂を減らしていくということにつながると考えているので、今まで興味がなかった方に手に取っていただくためにはまずはビジュアルや分かりやすさを重視することとした。ただし、簡単なものだけにしてしまうと、必要な説明が記載されていなかったり、先ほどの今井委員の質問のように今後どうしていくかということが記載されていなければ、意味をなさないものになってしまい、改悪になると考えられるので、十分に配慮しながら作っていききたい。11月にお示しした際に、またご意見をいただきたい。

■委員長

飯島委員、いかがか。

■飯島委員

見やすさ優先で、市民の方が早合点して誤解をしないようになっていけば問題ない。むしろ、こういった調整は大変なことだと思うが、ぜひ推進していただきたい。

■委員長

この件については、環境基本計画の年次報告書についても同じことが言える。
他にいかがか。

■高梨委員

飯島委員の発言とも関連するが、細かいところは資料編にまとめるということで、年次報告書のボリュームは少なくなると受け取ったが、私は資料編も含めて年次報告書だと思うので、より分かりやすい表現にし、データのものはデータのなものとしてしっかり年次報告書に記載し、発行の仕方を片方は文書で、片方をデータで市民の方が見られるようにする。そういう話であると理解していたが、資料編は年次報告書と違うというように受け取れた。3つの計画に関連するので、その辺りの考えを確認しておきたい。

■委員長

その点について誤解のないように説明いただきたい。事務局はいかがか。

■事務局

例として別冊や電子ファイルだと説明したが、それも含めて年次報告書だと認識している。報告書の本体の部分と資料編ということで、私も担当になって報告書を見たが、半分が資料編・データ集になっていた。これを見やすい報告書にするため、このボリュームで手に取っていただけるかどうかということも勘案して、手に取って見ていただくところを第一段階としている。

グラフや写真で必要な説明はさせていただく中で、その根拠データとなるようなものに関しては、例えばQRコードを付けて電子ファイルやホームページをご覧いただくという形で、基本的には報告書を一体として考えているが、手に取っていただくためにボリューム感を抑える形にしたいと考えている。

■高梨委員

今微妙な表現をされたが、報告書本体の構成が本編と資料編になっていると捉えるべきだとそういう意味で申し上げたのだが、ちょっとニュアンスが異なって受け取られたのかと思うが、その点はどうか。

■委員長

年次報告書は本編と資料編からなるという理解でよいのか。

■事務局

高梨委員のご意見どおり、基本的には本編と資料編からなると考えている。

■高梨委員

了解した。

■都市戦略課長

補足的なことだが、高梨委員のご意見のとおりであり、事務局の回答の本編と資料編であるというところもそうなのだが、少し気になったのが高梨委員は文章とデータを分けるというような意味合いもあったのかと受け取った。ゼロカーボンについては色々な施策、ものすごい量を記載しており、取り組みが何十種類も並んでいるので、それを羅列してしまうと余計分かりづらい。いわゆる本編のほうには分野ごとに主な取り組みをピックアップし、データになく文章だけになってしまうかもしれないが、本編の中でピックアップしなかった取り組みについても文章だけで資料編として掲載する可能性がある。その辺りは作りながら考えていくのでご意見をいただきたい。

■高梨委員

色々、それぞれの計画によって内容が違うので、やったことがしっかり市民に伝わるようにしていただくことが大切だが、その一方で、年次報告書の持つ意味として記録性がある。一つのメルクマールに対して、以前はどうだったかがきちんと確認できるような役割を持たせないといけない。そういう意味で申し上げたことであって、形式の本編と資料編にこだわっているわけではないのでご理解いただきたい。

■委員長

本編に記載するか、資料編に記載するかは別として、取り組みの進捗が網羅的に確認出来て、今後に向けての改善点も含め、方向性に共通認識が持てるような、網羅性、記録性が担保された体裁の見直し、手に取ってもらえるとか、見易さを工夫したいという事務局の試みかと思う。本編から落としたからといって、それについての情報は必要ないという話ではないということだが、高梨委員、いかがか。

■高梨委員

承知した。

■委員長

非常に重要な指摘だったと思う。他はいかがか。

■岸委員

一般論だが、先ほど緩和策についてはグラフ化できるが適応策はグラフ化できないとの判断が示され仰天している。例として出てきたのは農作物その他のことだったと思うが、今は横須賀市が適応策として何を考えているかということとも関係する。例えば温暖化が超高温で街に冷房の完備された公共施設を何件作るか、これは確実に数値化できる。それから、まだ横須賀市は本気にならなくていいとは思いますが、都道府県は流域治水をかなり本気でやっているので、じゃあ街の中に薄い貯留槽をいくつ作るか、これは数値化できる。

横須賀市で言えば、九州の飛騨や佐賀、以前の広島や熱海もそうだが、10ha、20haも小流域で土砂災害が起きて人が死んでいるので、これは自治体で扱えるかという頻度が低いので基礎自治体ではまだ早いですが、浦賀の防災安全度チェックなどをやると仮に決めたら、対象地域が100件あって何件チェックできるか数値化できる。

適応策は数値化できないという観念はぜひ払しょくしていただきたい。数値化できる適応策を扱っていないだけなので、これについては一般化せず、緩和策は数値化できるが適応策はできないということはないので一般論として認識は改めていただきたい。

■委員長

スライドを映していただいているが、(3)の「適応策には数値目標がないため」の部分について、アクションプラン策定に定量的な指標を位置付けていないということだが。

■岸委員

そういう指標を扱っていないだけという認識を持っていただきたい。

■委員長

アクションプラン自体も適宜見直しが必要になってくる。

■岸委員

数値化しなければ処理できない適応策も積極的に自治体が扱っていかなければならない時代がきているので、適応策は数値化できないという意識で横に広がらないでいただきたいということである。

■委員長

今のご指摘の点について、事務局はいかがか。

■都市戦略課長

委員のご意見は自治体としての姿勢や気概を持つべき、矜持だということだと認識した。委員長からも補足いただいたが、アクションプランを作る際に、適応策については数値目標を設定しないという形で策定をしている。委員の言うとおりの自治体がどこまでできるかというのはあるかもしれないので適応策というのは難しいところがあるが、アクションプランがこれで最後まで見直さないということでもないので、適宜状況を踏まえていきたい。

■岸委員

これは一般論の問題なので、今回取り上げた適応策に数値目標がないというのは納得で結論に何の異議もないが、適応策というのはそもそも数値目標がないということで納得しないでほしい。

■都市戦略課長

承知した。

■委員長

事務局もそれで納得されたかと思う。

■松本委員

今までの議論には賛成で、見やすく読んでいただけるような方向性と、データとしてのきちんとしたものを残すという方向性は賛成。見やすい、市民に見てもらえるという意味では工夫していくということでそれも期待しているが、佐世保市の例（資料6の7～8ページ）を見て私が最初に感じたのは、星印のところと目標値との比較のところ、前年度からの変化に対する星印がどういう意味なのか分かりにくく、前年度から後退しているが星印は1つついているという表現に違和感がある。星印であれば、目標値との比較でどこまで達成できているかのほうが自然に感じる。

市民がパッと見て判断するときにはこの部分がすごく大事なので、誤解がないような表現にしたほうが良い。

■委員長

佐世保市はこのようにしているということだが、横須賀市でも丸印なのかABCにするのか、いずれにしてもどのようにしっかり誤解のないようにするかが重要なので、このご指摘について、事務局はいかがか。

■都市戦略課長

委員長のご意見のとおりで、どういう形が一番わかりやすいのかということ、今後、松本委員のご意見も踏まえながら考えていきたい。

■林委員

今の松本委員と同じ部分について、7ページに「佐世保市の環境基本計画報告書のように見やす

い年次報告書を作成する」とあるが、それに対して今横須賀市が作った8ページのデザインだが、まず事務局が佐世保市の年次報告書を見やすいと理解した元の理由をお聞きしたい。

7ページで使われている佐世保の真ん中の枠で囲った部分と横須賀市で作ったものがほぼ同じで、法的な著作物でデザイナーなどに委託しているとしたらあまりにもセンスが似たもの過ぎるが。

■委員長

7ページと8ページは両方とも「こんなふうに佐世保市は作っている」という資料として出している。横須賀市の内容はまだ作成されていない。

■林委員

横須賀市はこれと似たものを作るということでデザイン的な案はまだできていないということか。

■委員長

そのとおりである。

これを見やすいとみなした理由を確認したいという点については、事務局いかがか。

■都市戦略課長

7ページも8ページも佐世保市のものになる。これ以外にもわかりやすいものは人によってはあると思うが、我々が見やすいと思ったのは、賛否あると思うが星印の数で表していて、例えばミシランガイドブックのように星3つがすごく良くて1つだとあまり良くないというように直感的にわかるのが良い。また、指標値と現況値が並んでいることによって比較しやすかったり、絵が入っていてフォントも大きかったり親しみやすかったりと、目を引く部分とそうでない部分があって、こういう感じのものが良いのではないかと感じた。

年次報告書(案)をお示しするまでには、佐世保市以外にもあるかもしれないので、もう少し調べながら作成していきたい。

■委員長

林委員、いかがか。

■林委員

承知した。

いずれにしても、この中で見やすいという状況から考えると、一般的にはまだ見やすいということまでは行っていない。どうしてもこういう報告書というものは、数字と文字とビジュアルとが多量に1ページの中に入り込むというところがあるので、ページ数を節約するということになる。どうしてもこういうスタイルになってくる。7ページのほうはグラデーションを使って上手に、線引きを使わずに現況値や前年度からの変化というところに目が行くようにそこだけ色を使っているが、8ページのほうはやはりなかなか厳しい。

目的の部分については文章である程度書かないといけないのでその表現と、結果については一目でわかるようになるようビジュアルなどを使い、評価についてはわかりやすい文章で表現するという三段構えくらいで構成していくほうが、研究者は専門家は見慣れているからわかるものの、一般の方にはそのほうが良いと感じた。

■都市戦略課長

ご意見を参考にしながら進めていきたい。

■高梨委員

個別にどうのこうのということではないのだが、環境基本計画のマネジメントという観点から質問させていただきたい。

年次報告書を作る中でPDCAサイクルを働かせていくということで、横断的・総合的に見ていく環境基本計画と、分野別の計画2つの年次報告書を作ることになっているが、計画の位置づけを見ると一般廃棄物や生活排水処理の計画もある。こちらのPDCAサイクルは環境基本計画とリンクさせてどのように取り組みをするお考えか。

■事務局

一般廃棄物処理基本計画と生活排水処理基本計画については、環境審議会とは別に廃棄物減量等推進審議会という別の審議会を持っており、そちらでPDCAのCにあたる部分を実施していただいている。年次報告書ということではないが、ごみの量を何年までにどれだけ減らすという目標値を持っているので、毎年、ごみの量はどうか、それに対してどうやったらごみの削減や資源化が進むのか、ご意見をいただきながら進めているところである。

■高梨委員

承知した。

分野別計画という概念は、何と言ったらいいか、現在の環境基本計画でこういう形に位置付けているが、下水などもある意味環境という部門からいうと非常に重要な要素であり、そういった意味では、主要な計画としてゼロカーボンアクションプランとみどりの基本計画があつて、いわゆる分野別計画には環境というだけじゃない要素がいくつもあるという感じなのか。

要するに、環境基本計画というものの管理をどのようにしたらいいのかということを考える際にどこまでどのように取り組んでいくのか、そういう意味で申し上げた。

■事務局

計画体系をどのように捉えるかというお話だと思うが、上下水道は右のほうに関連計画として連携・調整を行う同列の形で記載され、分野別計画は環境基本計画の下位計画として表現されていて、そのような体系をどう整理するか。特に環境はあらゆる計画と関連するといえはするが、どこまで体系としてしっかり落とし込めるかということかと思うが、事務局いかがか。

■事務局

環境基本計画は幅広いものだとは認識している。幅広い分野を所管している計画なので、それだけだと、例えばごみの問題をきちんと管理することが難しいのではないかとということもあり、それぞれの分野ごとに特化した計画を策定して、管理していく必要がある。もちろん、ごみに関しては法定計画なので法体系から見ても若干ずれる部分はあるが、環境基本計画はかなり幅広い分野を網羅しているものなので、それにぶら下がる個別の計画を持っているということである。

■高梨委員

一言でいうと、環境審議会の所掌性の範囲だということをごきちんと扱い、それ以外は個別の所掌

性があり、そちらでしっかり PDCA サイクルで進行管理をしているという理解でよろしいか。

■事務局

そのとおりである。

■委員長

他にいかがか。

本日は年次報告書の骨子案とのことで、まだ具体的にどういう中身で行くのかという肉付けの部分はこれからの作業となる。本日いただいたご意見を参考として、わかりやすさと、そうでありながらも、網羅性や記録性という言葉も出たが、これまでの取り組みの継続性を確認できるよう留意していただき、進捗状況の見せ方についてわかりやすく且つ誤解のないように、いくつか肉付けをしていただくにあたって留意いただきたいご意見があったので、そこを踏まえて事務局としては作業していただきたい。

今の委員の任期は切れてしまうが、次期委員による 11 月の審議会において内容のご確認をお願いし、中身についてご意見をいただくこととさせていただきます。

それでは、そのような方向で事務局は年次報告書（案）の作成作業を進めていただきたい。

本日の議題は以上とする。

7 その他

■事務局

以下の 4 点について事務局から連絡

(1) 後日意見について

後日、意見があった場合には、8 月 7 日（月）までに事務局へ連絡をいただきたい。

(2) 次回の環境審議会の開催日程について

次回は令和 5 年 11 月頃に開催を予定している。

なお、現委員の任期は 9 月末までだが、本日が任期中最後の審議会となる予定。継続いただける委員については引き続きよろしくお願ひしたい。今期で退任の委員については、2 年間、本市の環境行政にご尽力いただき、感謝申し上げます。

(3) 市役所北口駐車場利用の駐車券の処理について

(4) 山口環境部長 挨拶

8 閉会

■委員長

本日が任期中最後の審議会となるので、私からもお礼を申し上げます。

[奥委員長 挨拶]

それでは、以上をもって第 78 回横須賀市環境審議会を終了する。